

転倒転落ゼロを目指して

～院内多職種で力を合わせて不可能を可能に！！～



洛和会音羽リハビリテーション病院
TQM委員会 島川隼典

【はじめに】

病院理念

地域包括ケアの中核を担う施設

『地域包括ケアを支えるリハビリテーション病院』

地域完結型医療
なぜ重要？



- ◆ 高齢化により入院中心の医療から
在宅中心の医療へシフトが求められている
- ◆ 医療資源の効率的な活用と
患者のQOLの向上が期待される
- ◆ 地域での「治し支える医療」の実現に不可欠

【背景・目的】



ADL向上・積極的離床を推進する中で
2024年度転倒転落インシデント
334件



患者の安全と在宅移行支援の両立を図るため
多職種協働による転倒転落ゼロへの取り組みを検討

【方法】

2025年 5月：インシデントデータの収集・分析

6月/7月：計画立案

①昼食前のラジオ体操による離床促進

②ピクトグラムによる転倒リスクの可視化

8月：①→2A/2B病棟でトライアル開始

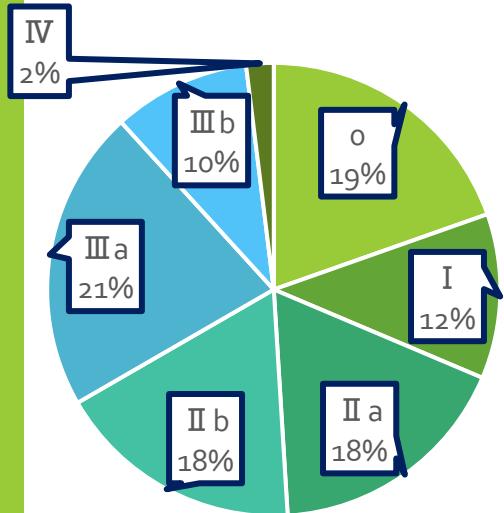
②→全病棟で運用開始

9月：全病棟(4病棟)運用開始



【対象】

認知症高齢者の
日常生活自立度



レベルⅢaの転倒割合が
最も多い

車椅子の転倒割合
が最も多い

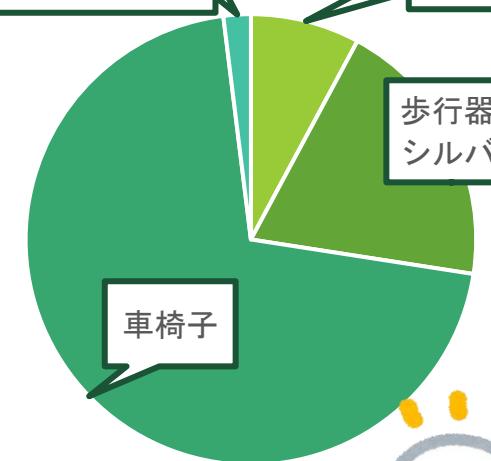


移動手段

ストレッチャー
2%

独歩・
杖

歩行器・
シルバー



【対象】

- ・車椅子見守り～介助が必要な患者
- ・認知症高齢高齢者の日常生活自立度レベルⅢ以上の患者

対策

日中の活動を促し生活リズムをつけることで転倒リスクの軽減につなげよう！！

転倒リスクを可視化することでスタッフの意識を高め転倒回避につなげよう！！

【結果】

①昼食前のラジオ体操による離床促進



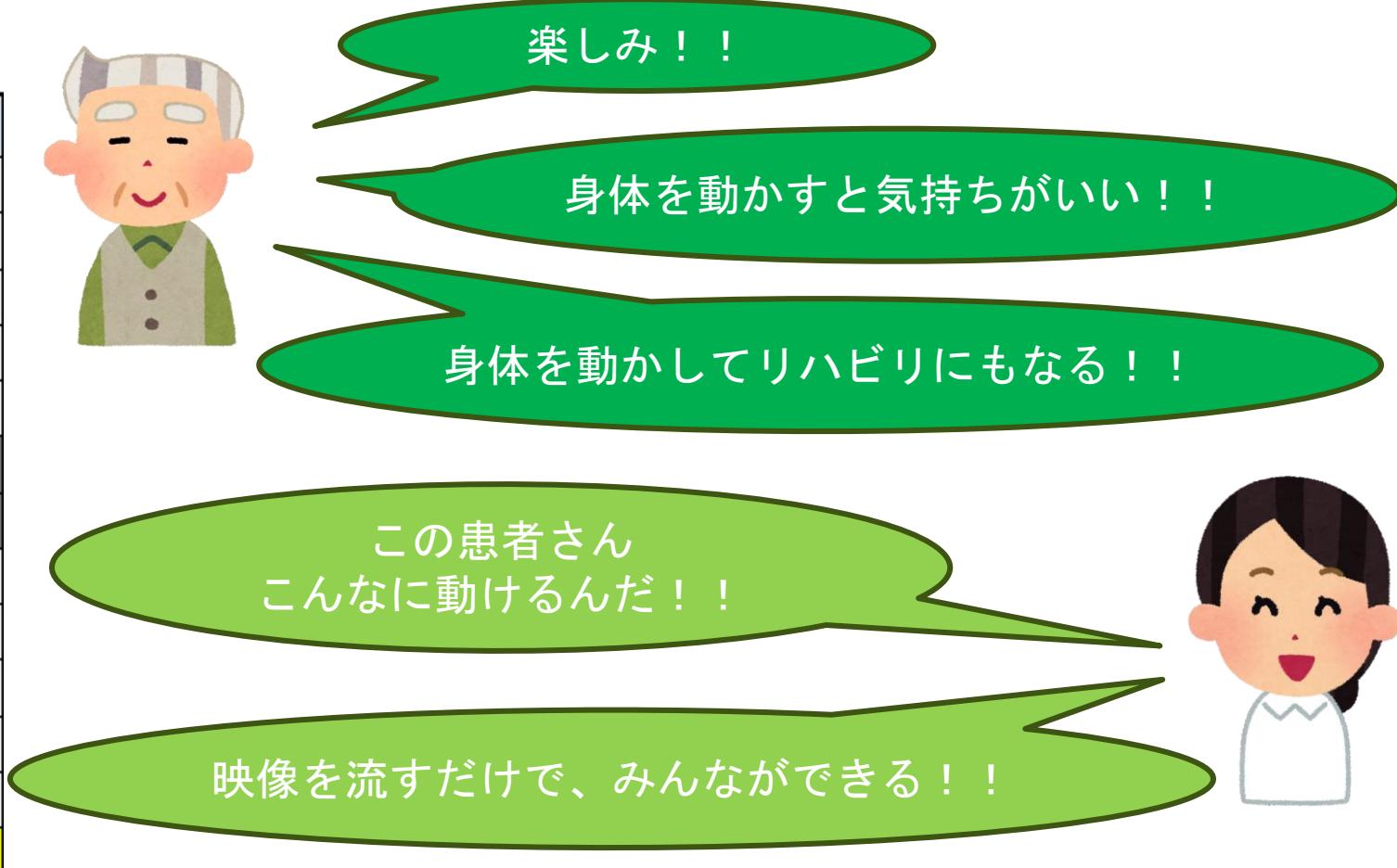
【結果】

①昼食前のラジオ体操による離床促進



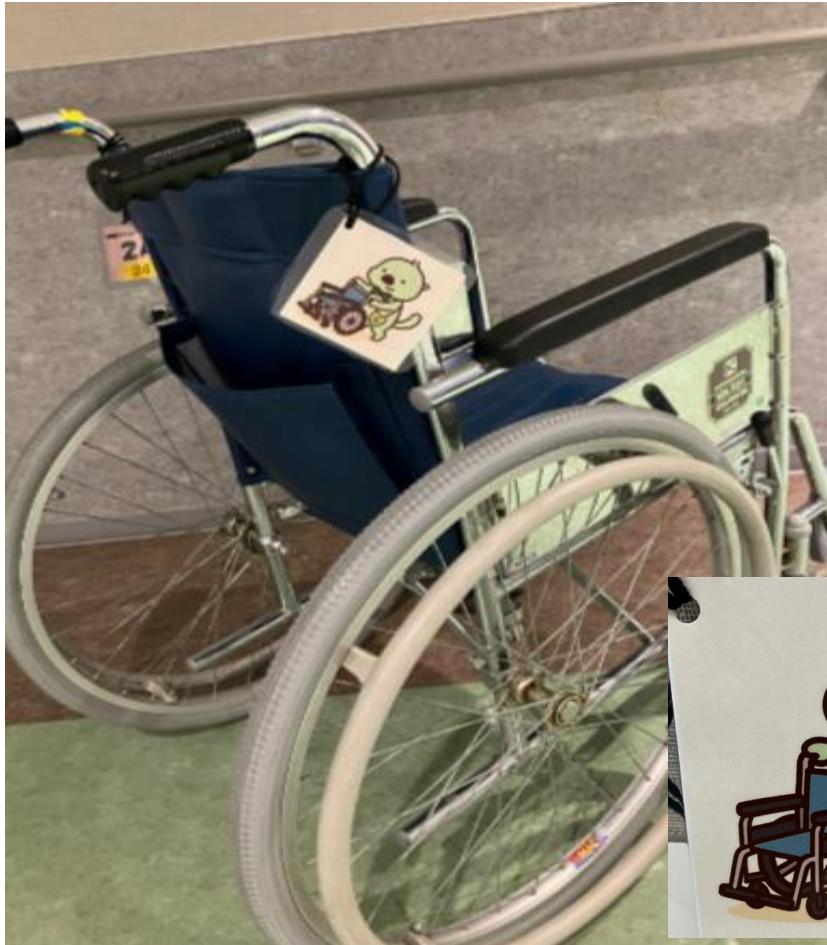
【参加状況】

		2A	2B	3A	4A	計
9月1日	月	5	5	8	10	28
9月2日	火	4	2	5	12	23
9月3日	水	コロナ中止		7	10	17
9月4日	木	コロナ中止	9	6	9	24
9月5日	金	コロナ中止	コロナ中止	6	10	16
9月6日	土					0
9月7日	日					0
9月8日	月	コロナ中止	コロナ中止	7	10	17
9月9日	火	コロナ中止	コロナ中止	6	10	16
9月10日	水	コロナ中止	コロナ中止	6	1	7
9月11日	木	コロナ中止	コロナ中止	7	12	19
9月12日	金	コロナ中止	コロナ中止	6	8	14
平均		4.5	5.3	6.4	9.2	



【結果】

②ピクトグラムによる転倒リスクの可視化



【結果】

- ・離床促進
- ・転倒リスクの可視化
- ・多職種協働による介入



- ◇生活リズムの改善
- ◇安全な療養環境
- ◇インシデントの減少
- ◇スタッフの意識向上
- ◇患者のQOL向上

2025年8月 転棟転落件数

1部署 : 4.5件 (2024年度 : 1部署平均7件/月)

【考察】



本取り組みは、患者の生活リズムの整備と安全管理に寄与し、多職種協働が情報共有体制の強化と、ケアの質向上を促す可能性が示唆される。



【おわりに】

転倒転落は、患者の負担や在宅移行の遅延を招く重大な課題である。



院内多職種での協働により
当院のバリュー『チームワークと貢献』の実践と
医療安全の向上に繋げていきたい



ご清聴

ありがとうございました

